

教員の総合業績(基礎資料)調査 氏名 (宮本 衛市)

1 研究業績

1) 著書・論文・学会発表・作品など (平成 12-16 年度に限る)

例: (欧文の場合は、原文 **alphabet** で記入してください)

全著者あるいは作者名 (自己にアンダーライン、単著の場合はアンダーライン不要)

& 著書、学術論文又は作品の名称

\$ 発行所 (総頁数)、発表雑誌又は発表学会 (号・巻・pp・年月)、展覧会 (場所・期間) などの名称

さらに、特別講演・シンポジウム (招待講演)・一般講演など (地方支部会・全国大会・国際会議) の別

註: 学会・展覧会など、専門分野以外の人に分りにくい場合は、できるだけその社会的位置づけ、歴史、規模などの簡潔な説明を付してください

・ジャーナル論文

- [1] 山口典男, 置田誠, 重松隆之, 高橋修, 宮本衛市: “バトラー型パーソナルサービスアーキテクチャの提案とそのユビキタス型ヘルスケアサービスへの適用の検討”, 情報処理学会論文誌, 第 47 巻, 第 3 号, pp. 722-730, 2006.03
- [2] 置田誠, 山口典男, 重松隆之, 高橋修, 宮本衛市: “携帯電話機用WEBブラウザのサーバ・レンダリング方式の提案と実装評価”, 情報処理学会論文誌第 47 巻第 7 号, pp. 2107-2116, 2006.7

・国際会議

- [1] Shin Yokoyama, Yoshikazu Nakane, Osamu Takahashi, Eiichi Miyamoto, “Evaluation of the Impact of Selfish Nodes in Ad Hoc Networks and Detection and Countermeasure Methods”, Proc. on MDM2006 workshop FMUIT, pp49-54, 2006.05
- [2] Makoto Okita, Hideyuki Tsugane, Norio Yamaguchi, Takayuki Shigematsu, Osamu Takahashi, Eiichi Miyamoto, “Server-Side Web Browser width Use of Videophone”, Proc. on Third International Conference on Mobile Computing and Ubiquitous Communication(ICMU) 2006, pp43-50, 2006.10

・口頭発表

- [1] 本間淳也, 渡辺慎哉, 宮本衛市: “Grammatical Evolutionの拡張による構造化プログラムの自動生成”, 電子情報通信学会ソフトウェアサイエンス研究会, 平成 12 年 7 月
- [2] 関 朋良, 渡辺慎哉, 宮本衛市: “GIMによるコンポーネントオブジェクトモデル”, 電子情報通信学会ソフトウェアサイエンス研究会, 平成 12 年 7 月
- [3] 渡辺慎哉, 竹下善史, 宮本衛市: “安全な接続を支援する分散コンポーネントモデル”, 情報処理学会ソフトウェア工学研究会「オブジェクト指向 2000 シンポジウム」, 平成 12 年 9 月

- [4] 横山信, 高橋修, 宮本衛市: “アドホックネットワークにおけるプロトコル非準拠ノードの振舞いとその評価”, 第 67 回情報処理学会全国大会, 平成 17 年 3 月
- [5] 山崎修司, 高橋修, 宮西洋太郎, 小西修, 宮本衛市: “階層的一方向性データのセキュアな管理方式とその評価”, 情報処理学会全国大会, 平成 17 年 3 月
- [6] 置田誠, 山口典男, 重松隆之, 高橋修, 宮本衛市: “携帯電話機用サーバ・クライアント型ブラウザの開発”, 情報処理学会全国大会, 平成 17 年 3 月
- [7] 伊藤雅博, 高橋修, 宮本衛市: “ユビキタス環境におけるユーザニーズの考察”, 情報処理学会全国大会, 平成 17 年 3 月
- [8] 横山信, 中根由和, 高橋修, 宮本衛市: “アドホックネットワークにおけるプロトコル非準拠ノードの検出方法及び対策”, 情報処理学会マルチメディア, 分散, 協調とモバイル (DICOM02005) シンポジウム論文集, pp. 233-236, 平成 17 年 7 月
- [9] 伊藤雅博, 高橋修, 宮本衛市: “ユビキタス社会におけるユーザニーズとコミュニケーションプロセスの考察”, 情報処理学会マルチメディア, 分散, 協調とモバイル (DICOM02005) シンポジウム論文集, pp. 401-404, 平成 17 年 7 月
- [10] 置田誠, 山口典男, 重松隆之, 高橋修, 宮本衛市: “携帯電話用WEBブラウザのサーバ・レンダリング方式の提案と実装評価”, 情報処理学会マルチメディア, 分散, 協調とモバイル (DICOM02005) シンポジウム論文集, pp. 733-736, 平成 17 年 7 月
- [11] 山口典男, 置田誠, 重松隆之, 浜崎伸夫, 高橋修, 宮本衛市: “ユビキタス型ヘルスケアの個人情報処理に対する通信網異常処理手法の適用に関する考察”, 情報処理学会マルチメディア, 分散, 協調とモバイル (DICOM02005) シンポジウム論文集, pp. 781-784, 平成 17 年 7 月
- [12] 横山信, 中根由和, 高橋修, 宮本衛市: “アドホックネットワークにおけるSelfish Node 対策の評価”, 情報処理学会MBL研究会, 平成 17 年 11 月
- [13] 置田誠, 山口典男, 重松隆之, 高橋修, 宮本衛市: “HTMLメールを利用したSMTP通信によるサーバ変換型WEBブラウザ方式の提案と実装評価”, 情報処理学会MBL研究会, 平成 18 年 2 月
- [14] 山口典男, 置田誠, 重松隆之, 高橋修, 宮本衛市: “バトラー型パーソナルサービスアーキテクチャを用いたユビキタス型ヘルスケアサービスの検討”, 情報処理学会MBL研究会, 平成 18 年 2 月
- [15] 齋藤孝幸, 宮本衛市: “ユースケースから設計への橋渡しに関する研究”, 情報処理学会全国大会, 平成 18 年 3 月
- [16] 藤島浩二, 宮本衛市: “blogコミュニティにおける話題抽出に関する研究”, 情報処理学会全国大会, 平成 18 年 3 月
- [17] 石山慎, 佐々木準人, 渡辺雅人, 新美礼彦, 高木剛, 小西修, 宮本衛市, 高橋修, “GPS 携帯電話を用いたマルチベンダ対応チャットとスケジューラの実装”, 人工知能学会全国大会, 2006.06
- [18] 横山信, 中根由和, 高橋修, 宮本衛市, “ブラックリスト方式を使用したアドホックネット

ワークにおけるブラックホール攻撃対策の評価”， 情報処理学会DICOMO2006 シンポジウム， 2006.07

[19] 伊藤雅博， 高橋修， 宮本衛市， ”ユビキタス環境の実現を牽引するFMCサービスとユーザニーズの考察”， 情報処理学会DICOMO2006 シンポジウム， 2006.07

4)置田誠， 津金英行， 山口典男， 重松隆之， 高橋修， 宮本衛市， ”携帯電話機のテレビ電話を利用した動画配信による サーバ変換型WEBブラウザの提案と実装評価 ”， 情報処理学会DICOMO2006 シンポジウム， 2006.07

2) 学会活動（役員・会員）、学会の組織運営、学会誌の編集委員など（平成 12-14 年度に限る）

例：

#学会などの名称

&編集委員長又は委員などの別

\$ 任務期間（年月）

註：専門分野によっては適宜変更（例えば、学会を展覧会などと記す）・追加説明を付してください できれば展覧会・学会などについても社会的位置付け、歴史、規模などの簡潔な説明を添えてください

1. 日本ソフトウェア科学会評議員（平成元年 4 月～現在）
2. 情報処理学会ア krediyation 委員会ソフトウェアエンジニアリング分科会委員（平成 12 年 9 月～現在）
3. 日本ソフトウェア科学会第 18 回大会大会委員長（平成 13 年 9 月）
4. ACM国際大学対抗プログラミングコンテスト 2001 年アジア地区予選函館大会実行委員長（平成 13 年 11 月）

3) 研究費獲得状況（未来大学外からの財源）（科学研究費、財団助成金、委任経理金など（平成 12-14 年度に限る）

例：

#平成 12-(13)年度

&財源、たとえば科学研究費補助金

\$ 研究課題名

%代表者、分担者の別、研究課題参加者数、あるいは〇〇研究所との共同研究（相手機関の協同研究者数など）

¥研究経費（例：平成 12 年度；800 千円、平成 13 年度；500 千円）

--

4) その他(特許、内地研究(学内共同研究は除外)および在外研究歴と成果など特記すべきこと。本項目は平成12-14年度に限定しない。)

2 教育業績

1) 教育負担の実態(複数教員で担当する科目の場合は、貴方の分担分のみ)本項目は時間割に含まれた教科(補講・補習など教室で行なったものは含む)を調査の対象としております。従って、〇〇研究会、〇〇同好会など、各教員室他で行なったものは、対象外とします。試験やレポートなどの採点時間も除外します。

例:

#科目名(講義・演習・実習・補講の別)、単位数・必修/選択の別、担当教員数(単独の場合は不要)

&実施期間(平成12年度前期、あるいは平成13年10-11月)、実施コマ数(休講しても補講で補えば算定する)、補講をしなかった休講回数(例:実施13コマ、休講2コマ)

\$実働時間数(全て、実時間合計(推定)値でお願いします)、演習などは一コマ1.5時間を超えていると思われるので、そのような場合は、たとえば一コマ2.2時間などと算定してください(例:実働22.5時間)

%受講登録学生数(例:45名)、平均的出席者数(例:38名;初めは40名、終りは25名など)、単位認定(合格)者数

註:本項目はできるだけ正確にお願いしたいですが、概数でも結構です 記述がない場合は0と判断します

1. プログラミング言語論(講義), 2単位・必修, 平成12年前期, 実施コマ数15コマ, 実働22.5時間, 80名, 80名, 80名.
2. プログラミング言語論(講義), 2単位・必修, 平成13年前期, 実施コマ数15コマ, 実働22.5時間, 80名, 80名, 80名.
3. 形式言語とオートマトン(講義), 2単位・選択, 平成13年前期, 実施コマ数15コマ, 実働67.5時間, 200名, 200名, 190名.
4. プログラミング言語論(講義), 2単位・必修, 平成14年前期, 実施コマ数15コマ, 実働22.5時間, 80名, 80名, 80名.
5. プログラミング演習(演習), 2単位・必修, 平成14年前期, 実施コマ数14コマ, 実働42時間, 40名, 40名, 40名.

6. 形式言語とオートマトン（講義）， 2単位・選択， 平成14年前期， 実施コマ数15コマ， 実働45時間， 140名、140名， 130名.
7. コンパイラ構成法（講義）， 2単位・選択， 平成14年前期， 実施コマ数15コマ， 実働22.5時間， 60名， 30名， 20名.
8. プログラミング言語論(講義)， 2単位・必修， 平成15年前期， 実施コマ数15コマ， 実働22.5時間， 80名、80名， 80名.
9. プログラミング演習(演習)， 2単位・必修， 平成15年前期， 実施コマ数14コマ， 実働42時間， 40名， 40名， 40名.
10. 形式言語とオートマトン（講義）， 2単位・選択， 平成15年前期， 実施コマ数15コマ， 実働45時間， 140名、140名， 130名.
11. コンパイラ構成法（講義）， 2単位・選択， 平成15年後期， 実施コマ数15コマ， 実働22.5時間， 60名， 30名， 20名.
12. プログラミング言語論(講義)， 2単位・必修， 平成16年前期， 実施コマ数15コマ， 実働22.5時間， 80名、80名， 80名.
13. プログラミング演習(演習)， 2単位・必修， 平成16年前期， 実施コマ数14コマ， 実働42時間， 40名， 40名， 40名.
14. 形式言語とオートマトン（講義）， 2単位・選択， 平成16年前期， 実施コマ数15コマ， 実働45時間， 140名、140名， 130名.
15. コンパイラ構成法（講義）， 2単位・選択， 平成16年後期， 実施コマ数15コマ， 実働22.5時間， 60名， 30名， 20名.
16. コンピュータアーキテクチャ（講義）， 2単位・選択， 平成17年前期， 実施コマ数15コマ， 実働45時間， 160名、160名， 140名.
17. 形式言語とオートマトン（講義）， 2単位・選択， 平成17年前期， 実施コマ数15コマ， 実働45時間， 140名、140名， 130名.
18. コンパイラ構成法（講義）， 2単位・選択， 平成17年後期， 実施コマ数15コマ， 実働22.5時間， 60名， 30名， 20名.
19. コンピュータアーキテクチャ（講義）， 2単位・選択， 平成18年前期・後期， 実施コマ数30コマ， 実働45時間， 150名、150名， 150名.
20. 形式言語とオートマトン（講義）， 2単位・選択， 平成18年前期， 実施コマ数15コマ， 実働22.5時間， 60名、60名， 60名.
21. コンパイラ構成法（講義）， 2単位・選択， 平成18年後期， 実施コマ数15コマ， 実働22.5時間， 116名， 50名， 44名.

2) 成績評価方法（その方法を具体的に記載・学生（社会）が納得するような具体的説明。）
また、複数の教員で担当する科目の場合は、取りまとめの方法についても記述してください。

基本的な理解度を問う中間試験と期末試験に、出席状況と課題の提出状況を加味して総合的に評価

3) 講義方法など改善への努力 (FD 関連の講演会などの聴講回数、教育内容とそれらの効果について貴方が行われた事柄・目標を具体的に記述して下さい)。

- ・講義の進捗に伴う学生の理解度は大きく異なってくるので、理解の遅れている学生には授業外に数人規模で学習指導を行い、さらに期末試験で理解度が不十分な学生には補講を行い、一定の理解度に到達させるよう努めた。
- ・毎回授業後に、授業内容の理解を促す目的で課題を提出させ、次回にその解答をすることにより、各自の理解に対するフィードバックをかけている。

4) その他 (上記以外に特記すべきことがありましたら、簡潔かつ具体的に、箇条書きなどで記述してください。特に、貴方が作られたシラバスと現在教務委員会で検討されている (コース別) 講義内容・目標、あるいは JABEE などとの関連、並びに貴方が担当されている科目の位置付けなどについてご意見があれば記して下さい。また、本学は教員の専門分野が多岐にわたっているため、相互理解を目的としたコース特有の問題点や、皆さんの教育に対する抱負などを記述して戴いても結構です。)

1. プログラミングの基本はスケジューリングであり、後者の弱い学生に対しては、この観点に立って指導する必要がある。
2. 学生のレベルに合わせてプログラミングに対する興味を抱かせる演習、教材を吟味する必要がある。
3. 講義を聴くだけでなく、自ら手を動かす演習が極めて大事であるので、講義と演習を組み合わせるか、課題を解かせるなどの指導が重要である。

3 大学の管理運営

各種委員会 (委員長・委員、クラス担任、学習指導・生活指導、クラブ活動の顧問等の実績 (具体的に記述してください、できれば実働延べ時間数など))、その他。

1. 情報アーキテクチャ学科長 (2000.4~2004.3)
2. ライブラリー長 (2000.4~2002.3)
3. 大学院検討委員会委員長
4. 入試委員会委員
5. 就職委員会委員長
6. 自己評価委員会委員

7. 新システム委員会委員

8. 将来計画委員会委員

4 その他

資格（技術士など）、地域への貢献（地域自治体審議会、委員会等の役員、委員。地域との共同研究・技術相談。公開講座・出前授業・市民向け講演）あるいは提言・御意見など

1. 函館市 IT 支援事業入居者選考委員会委員長